

(別紙様式)

平成 28 年度 北極域研究共同推進拠点 共同研究等報告書

申請区分: 萌芽的異分野連携共同研究 共同推進研究
産学官連携フイージビリティ・スタディ
共同研究集会 産学官連携課題設定集会

研究課題名: 北極域の人類社会における生業と大規模な変化への適応

研究期間: 平成 28 年度～平成 28 年度

共同研究員	氏名	所属・職名
研究代表者	近藤 祉秋	北海道大学アイヌ・先住民研究センター 助教
研究分担者(拠点外)	大石 侑香	東北大学東北アジア研究センター／学術振興会特別 研究員 PD
	合原 織部	京都大学大学院人間・環境学研究科 博士後期課程
研究分担者(拠点内)	的場 澄人	北海道大学低温科学研究所 助教

【研究の内容】

本共同研究は、北極域の諸社会を対象として、近年の環境および社会の大規模な変化に対して、人々がどのように適応しているかを探ることを目的としている。本年度は、共同研究の初年度であり、若手研究者2名が海外調査を実施し、基礎的なデータの収集に尽力した。研究プロジェクト全体としては、研究集会を1月末に開催し、今後の検討事項を整理した。また、北海道大学北方研究教育センター主催「北方の言語と文化にかんするシンポジウム」(1月28日)の開催に協力し、第2セッション「社会・環境と動物」において、2名が研究発表をおこない、共同研究の成果の一部を発表した。

今年度における共同研究者の研究活動に関して、概要を紹介する。大石侑香は、ロシア連邦ヤマロネネツ自治管区でハンティ社会を対象に現地調査をおこない、オビ川のホワイトフィッシュの利用とその減少をめぐる在来知に関する研究成果を発表した。合原織部は、北モンゴル・ツァータン族を対象に、彼らの生業形態が社会主義、ポスト社会主義、資本主義へと移行するなかで、いかに変容してきたのかを考察することを目的とし、先行研究のレビューと予備調査を実施した(3月下旬帰国予定)。的場澄人は、グリーンランド北西部カナック村において、海氷流出がオヒョウ漁に影響を与える可能性について現地滞在中の日本人研究者を通じて情報を収集するとともに、来年度の氷河調査に関連する聞き取り調査の準備をおこなった。近藤祉秋は、内陸アラスカの先住民社会において、人々がいかにサケを利用してきたか、および、近年のマスノスケ減少問題においてどのような政治運動を組織したかに関して、過去の調査データを整理し、研究発表をおこなった。

研究者個人による現地調査と研究集会等での議論を経て、今後の共同研究で追及していくべき具体的な論点・課題が浮き彫りになってきた。今後、本共同研究では、以下の課題に取り組んでいく

い。(1)北極域における漁撈の重要性は早くから指摘されてきたが、近年、さまざまな理由で漁撈対象種の個体数減少が問題となっていることがわかった。民族誌的調査により、こうした状況への人々の対応をいかに描くべきであるのか？魚類減少の理由は、地域横断的に類似していると言えるか、それとも、多様であるか？また、漁撈に関する問題に関連して、現地社会の人々および現地で研究活動をおこなう自然科学者といかに対話するべきであろうか？(2)同じく、トナカイ(野生種含む)とヘラジカも北極域の生業において非常に重要であるが、それぞれの社会が牧畜もしくは狩猟という異なる生業を通してこれらの動物と関わっている。生業の違いが環境変化およびグローバル化への適応にどのように影響しているのだろうか？(3)気候変動がいかに現地社会に影響を与えたかを探る文化人類学的研究において、現地社会の適応に焦点を当てるのみならず、環境正義やポストコロニアルの関係も論じる傾向が強くなってきた。この流れに対して、どのように応答するべきか？

【研究論文や著書等】

- 1) 的場澄人、山口悟、對馬あかね、青木輝夫、杉山慎. 2017. グリーンランド氷床北西部沿岸部における表面質量収支の変動. 低温科学, Vol. 75 in press 査読無(2017年3月)
- 2) Katsuyama, T., M. Inatsu, K. Nakamura and S. Matoba. 2017. Global warming response of snowpack at mountain range in northern Japan estimated using multiple dynamically downscaled data. Cold Regions Science and Technology, Vol. 136: 62-71, doi:10.1016/j.coldregions.2017.01.006.査読有(2017年1月)
- 3) Iizuka Y. A. Miyamoto, A. Hori, S. Matoba, R. Furukawa, T. Saito, S. Fujita, M. Hirabayashi, S. Yamaguchi, K. Fujita and N. Takeuchi. 2017. A firn densification process in the high accumulation dome of southeastern Greenland. Arctic Antarctic and Alpine Res., Vol. 46: 13-27, doi: 10.1657/AAAR0016-034.査読有(2017年1月)
- 4) Sasaki, H., S. Matoba, T. Shiraiwa and C. S. Benson. 2016. Temporal variation in iron flux deposition onto the northern North Pacific reconstructed from an ice core drilled at Mount Wrangell, Alaska. SOLA, Vol. 12: 287-290, doi:10.215/sola.2016-056.査読有(2016年11月)
- 5) 的場澄人、青木輝夫、庭野匡思、朽木勝幸、兒玉裕二、山口悟. 2016. 北海道大学低温科学研究所観測露場の積雪・気象観測データの公開. 北海道の雪氷, 35: 135-136.査読無(2016年9月)
- 6) 近藤祉秋. 2016. 狩猟・漁撈教育と過去回帰: 内陸アラスカにおける生業の再活性化運動. シンジルト, 奥野克巳(共編)『動物殺しの民族誌』, 昭和堂, 293-326.(査読無)(2016年10月)
- 7) 近藤祉秋. 2016. 犬むさぼる呪術師: 内陸アラスカのワタリガラス神話における犬肉食. 野田研一, 奥野克巳(共編)『鳥と人をめぐる思考』, 勉誠出版, 27-52. (査読無)(2016年11月)
- 8) 野口泰弥, 近藤祉秋. 印刷中. 狩猟具にやどる威信: 18世紀末~20世紀前半アサバスカン社会のナイフ使用における分析. 北海道立北方民族博物館紀要, Vol. 26: ページ未定.(査読有)(2017年3月出版予定)

【研究発表】

- 1) 大石侑香. 2016. オビ川の回遊魚減少に関する在来知と科学知. 第22回日本生態人類学会, 2017年3月17日, 福知山市, ホテルロイヤルヒル福知山&スパ.

- 2) Yuka Oishi. 2016. Synsko-Voikarskii Zakaznik' and Complex Subsistence of Synia Khanty. Seminar-roundtable on Frontiers in Arctic Research, 2016年10月18日, Helsinki, Aleksanteri Institute.
- 3) Yuka Oishi. 2016. Expansion of no-fishing area in Northwestern Siberia and changing livelihood of the indigenous people. Finnish-Japanese early career arctic scientists (ECAS) workshop "Prospects of joint investigations in circum-Arctic region" held by APECS Finland and APECS Japan, 2016年10月17日, Helsinki, Helsinki University.
- 4) Yuka Oishi. 2016. Possible road to good use of indigenous knowledge to protect migratory fish as common resources in the lower Ob' River and its tributaries. 日露若手北極研究者交流会, 2016年10月12日, モスクワ, ロシア科学アカデミー.
- 5) 大石侑香. 2016., 西シベリア・北ハンティの季節移動の条件. 日本文化人類学会東北地区研究懇談会, 2016年7月13日, 仙台市, 東北大学.
- 6) Yuka Oishi. 2016. Disappearing 'White Fish' and Remaining 'Black Fish' in the Lower Ob' River and Its Tributaries. Young researchers' seminar in Slavic-Eurasian Research Center 2016 Summer International Symposium: "Russia's Far North: The Contested Frontier", 2016年7月6日, Sapporo, Slavic-Eurasian Research Center.
- 7) 的場澄人. 2017. グリーンランドの自然環境の変化と地域社会への影響. 北方の言語と文化にかんするシンポジウム, 2017年1月28日, 札幌市, 北海道大学.
- 8) 的場澄人. 2016. グリーンランドの環境変化と地域社会への影響. 北極域研究共同推進拠点開設記念シンポジウム, 2016年5月21日, 札幌市, 北海道大学.
- 9) 的場澄人. 2016. SIGMA-D コアから復元した小氷期以降の環境変動. 低温科学共同研究集会「グリーンランド氷床の質量変化と全球気候変動への影響」, 2016年12月19-21日, 札幌市, 北海道大学.
- 10) 的場澄人、原圭一郎、山崎哲秀、平林幹啓. 2016. 海氷上のフロストフラワー形成及び成長時の分別と濃縮. 雪氷研究大会, 2016年9月30日, 名古屋市, 名古屋大学.
- 11) Matoba S, Hara K, Yamasaki T & Hirabayashi M. 2016. Chemical Concentrations and Fractionations during Formation of Frost Flower on Sea Ice. The Goldschmidt Conference, 27 June, 2016, Yokohama.
- 12) 近藤祉秋. 2016. 森のエンジニアたち: 内陸アラスカにおけるサケをめぐる複数種間の関係. マルチスピーシーズ人類学第2回研究会, 2016年7月15日, 池袋, 立教大学池袋キャンパス.
- 13) 近藤祉秋. 2017. 北方樹林のエンジニア: 内陸アラスカにおけるヒト・サケ・ビーバーの関係から. 北方の言語と文化シンポジウム2017「北方の人と動物」, 2017年1月28日, 札幌, 北海道大学.
- 14) Kondo, Shiaki. 2017. In Quest of Multispecies Landscape: "Resource Management" Practices in Anthropogenic Alaska. A paper presented at the Workshop "In Quest of Human Landscape: Archaeology, Anthropology, Indigenous Studies" in Hokudai Day 2017, Hokkaido University - University of Helsinki Joint-Conference, March 3, 2017, Helsinki, University of Helsinki.

【アウトリーチ、取材、解説、その他】

- 1) 大石侑香・高倉浩樹教授共同開催. 一般公開写真・民具展「トナカイビトの暮らしの中の毛皮」
2016年12月1日-12月17日, 仙台市, 東北大学.
- 2) 大石侑香「トナカイ牧夫の子供たち」株式会社三省堂(編)『Teaching English Now』(34) 1-1 ,
2016年9月.
- 3) 的場澄人. 2016. グリーンランドはどんなところ? 公益社団法人日本雪氷学会編, 高橋修平,
渡辺興亜編著, 「雪と氷の疑問 60(みんなが知りたいシリーズ2), pp140-143、成山堂書店(2016年
10月).
- 4) 的場澄人. 2016. フロストフラワーとは何ですか? 公益社団法人日本雪氷学会編, 高橋修平,
渡辺興亜編著, 「雪と氷の疑問 60(みんなが知りたいシリーズ2)、pp76-77, 成山堂書店(2016年10
月).
- 5) 的場澄人. 2016. グリーンランドとその環境変化. 「グリーンランドをめぐる音楽・冒険・サイエンス
-北極域の持続可能な未来にむけて-」, 2016年11月7日, 北海道大学博物館.
- 6) Kondo, Shiaki. 2016. Culture Camp across the Pacific. Musqueam 101 presentation, October 5,
2016, Vancouver, Musqueam Indian Band Office.
- 7) 近藤祉秋. 2016. アラスカの狩猟と食文化. 北海道大学アイヌ・先住民研究センター月例公開講
座『アイヌを学ぶ⑤』, 2016年11月29日, 札幌, 北海道大学.
- 8) 近藤祉秋. 2017. カリブーのキャラバン: アラスカ・グイッチンの狩猟と文化復興. アークティックサ
ークル, Vol. 102: 4-7.